

岩鷲山

〔和漢三才圖會陸奥六十五〕岩鷲山 在南部盛岡之西

當山與津輕領岩城山二共形略彷彿駿河富士故呼曰奧富士

〔東遊雜記二十〕岩鷲山は盛岡より西南の間に見へて行程四里雲霧峯を隠す時は駿州富士山に

似たり世に奥の富士と稱せるは此山の事にて土人は南部の富士とて津輕の岩城山よりくら

べ見れば此山餘程低し兩山ともに富士に似たるとて富士の名をいへども駿州の富士より見

れば十にして其二ツならんか予委しく他方の高山と稱せるを一覽してますく駿州の富士

山に感じぬ地理に委しからぬ人の愚眼笑ふに絶たり森岡より東南に南昌山と稱せる山南部

第一の高山有又姫ヶ嶽といふ山も高山にて岩鷲山に相對せり

出羽國  
鳥海山

〔和漢三才圖會出羽六十五〕鳥海山權現 祭神 未詳

慈覺大師始登山云云最高山常有雪潔齋六七月可登而山頂無寺社唯見奇磐窟也麓有社傳曰鳥

海彌三郎三郎靈祠也有川鎌倉權五郎景政與鳥海彌三郎戰被射右眼放答矢射殺敵後拔鏃到此

川洗眼云云此川有黃類魚一眼眇也

〔諸州探藥記抄錄〕出羽國 鳥海山は日本四の高山なり麓の村より山上まで道法六里餘有四里

半登古來より四季共に雪消すといへり實に雪にて築立たる山の如く見ゆる享保六年丑年御

用に依て予彼國に下り閏七月朔日此山に登る午の刻山の六七分に至る比頻りに大風雨起り

山鳴谷響き砂石を飛し風雨面を搏起居動靜心に任せず雨巖を洗ひて千尋の谷に落る水は瀧

の如し此山中に方一里程の湖水有山の左右に異國までも續くといへり限なき荒海なり略下

〔東遊雜記八〕鳥海山は世にゑる大山酒田より見れば卯辰に見エ青塚よりは巳寅に見へ山の風

俗異なり酒田より麓まで三里夫より頂まで九里下向道は五里土人の云嶮しき道寛かなる道